

特徴的なタイルとXNAに対応したアプリケーションが印象的

一足先に知っておく

Windows Phone 7

Windows
Phone



日本ではまだメジャーではないMicrosoft Windows Phone 7.
まずはプラットフォームを理解しておけば、大丈夫だ、問題ない。

高橋 忍

Windows Phone 7とは?

Windows Phone 7は2010年にマイクロソフトが発表し、リリースしたスマートフォン用のOSです。これまでリリースされていたWindows Mobile 6シリーズと比べても、ユーザ・インターフェース(以下、UI)、アプリケーション・プラットフォーム、ハードウェアなどの仕様を大きく変更し、全く新しいスマートフォン用のOSとして開発されています。

Windows Phone 7を開発するに当

たってMicrosoftが目指したのは、「ユーザにとって最高の環境を提供すること」と「開発者にとってアプリケーションを作りやすい環境を提供すること」の2点です。これらを実現するために、幾つかのコンセプトが実装されています。

■メトロデザインフレームワーク

Windows Phone 7のデザイン・フレームワークのコードネームを“メトロ”もしくは“メトロデザインフレームワーク”と呼びます(図1)。メトロデザインフレームワークでは、標準的なUIにタッチ操作を念頭に置いた大き

さと操作感のアイコンを持っています。

基本的な操作部分(コントロール)のデザインは、モノリスティック、つまり一体感があって、非常にシンプルです。また、基本的な色を持たず、背景が透明となったアイコンです。

このあたりは、最近のスマートフォンの標準的な「角丸、グラデーション」とは少し違った印象を受けるかもしれませんが、ただし、特定の色を持たないコントロールは、グローバル・デザイン(共通のデザイン)ながらアプリケーションごとに特徴のあるUIを実現できます。

■スタート画面とタイル

電源を入れると、日付と時刻、そしてスケジュールが入ったスタート画面が表示されます。例えば、よく使われるスケジュールの確認は、アプリケーションを立ち上げなくても、パスワード・ロックを外す前でも、時間と次の予定を知ることができます(図2)。

そして、その次に目に飛び込んでくるのが、タイルと呼ばれるWindows Phone 7の中心となる画面です(図3)。タイルには電話、メール、スケジュールなどスマートフォンで標準的に使われる機能が並んでいます。その中の幾つかには、アイコン上に最新情報が表示されています。アプリケーションを



図1 “メトロデザインフレームワーク”を採用するWindows Phone 7.タッチ操作を前提とした操作感だ



図2 電源を入れると日付と時刻、スケジュール画面が立ち上がる。ロックを解除せずに確認できる